

社会思想史 I

科目ナンバリング HIT-101
選択 2単位

藤本 龍児

1. 授業の概要(ねらい)

本講義では、社会思想史の観点から特に近代社会を焦点にして、社会学や社会学全般の成立や意義について考えます。まず、その成立を歴史的にみることによって、根本的な社会科学の意味を原理的に確認します。そうすることで、現代の社会科学の意義を認識するとともに、その問題点や課題を明らかにし、さらには将来の課題を展望できるようにします。

2. 授業の到達目標

- ・社会科学を思想的観点から理解し、その成立の背景を理解する。
- ・社会科学を近代社会のなかに位置づけ、その意義を理解する。
- ・社会科学と社会思想史の特徴を説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

- ・原則として8割以上の出席を前提とする。
- ・適宜おこなう感想文の提出を必須とする。
- ・試験で講義内容とテキストにかなう理解度を問う。
- ・以上に授業態度をくわえ、総合的に判断して成績評価をおこなう。

4. 教科書・参考文献

教科書
藤本龍児 教科書『アメリカの公共宗教：多元社会における精神性』

NTT出版

5. 準備学修の内容

この講義には、特別な前提知識は必要ありません。

6. その他履修上の注意事項

この講義だけで一つのまとまりをもっていますが、続けて社会思想史Ⅱを履修することが望ましい。
講義は以下のような内容を計画しています。ただし、受講者の理解や関心に応じて柔軟に改変していきます。

7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション：社会思想史から見る社会科学
- 【第2回】 古代における「社会」：プラトン、アリストテレス
- 【第3回】 中世における「社会」：アウグスティヌス、アキナス
- 【第4回】 ルネッサンス(近代社会の準備)：人間中心主義の勃興
- 【第5回】 宗教改革(世俗社会の自律)：ルター、カルヴァン
- 【第6回】 科学革命(自然科学の発生)：デカルト
- 【第7回】 市民革命(民主社会の準備)①：ホブズ
- 【第8回】 市民革命(民主社会の準備)②：ロック
- 【第9回】 市民革命(民主社会の準備)③：ルソー
- 【第10回】 ウェストファリア条約(主権国家の登場)：グロティウス
- 【第11回】 産業革命(市場社会の展開)①：アダム・スミス
- 【第12回】 産業革命(市場社会の展開)②マルクス
- 【第13回】 第一次世界大戦(現代社会の形成)：西欧中心主義の崩壊
- 【第14回】 ヨーロッパの近代化と合理化：ウェーバー
- 【第15回】 まとめ